

【講演者プロフィール】

揖斐 高（いび たかし）

1946年、福岡県北九州市生まれ。成蹊大学名誉教授。

1971年、東京大学国文学部卒、76年、同大学院博士課程単位取得満期退学。大学院生時代に富士川英郎や森銑三の著作に出会い、大きな影響を受ける。白百合女子大学専任講師を経て成蹊大学に文学部助教授として赴任し、以後学部長などの要職をこなしつつも、近世文学研究の研究と教育に従事した。

博士論文として提出された『江戸詩歌論』（1999年）は文学史に抗いつつ和漢雅俗を自在に往還し、幾多の江戸詩人の営みを発掘した労作で、第50回読売文学賞（翻訳・研究部門）を受賞した。以後、『遊人の抒情 柏木如亭』（2000年）『江戸の詩壇ジャーナリズム「五山堂詩話」の世界』（2001年）『江戸の文人サロン 知識人と芸術家たち』（2009年）『近世文学の境界 個性と表現の変容』（2009年）など多数の書によって近世文学の豊穡を世に問い、2011年には紫綬褒章受章。

2017年には日本学士院会員に選ばれた。

【発表者プロフィール】

大石 徳子

成蹊大学大学院文学研究科日本文学専攻博士前期課程在籍。専門：日本近現代文学

牛田 きぬ

成蹊大学大学院文学研究科日本文学専攻博士後期課程在籍。専門：日本近世文学

桜井 宏徳

2006年、成蹊大学大学院文学研究科日本文学専攻博士後期課程修了、博士（文学）。専門は中古文学、特に歴史物語。

現在、成蹊大学のほか、國學院大学・白百合女子大学・武蔵野大学で非常勤講師・兼任講師を務める。

2015年、「宇治十帖の中務宮—今上帝の皇子たちの任官をめぐる—」（『中古文学』第93号）で第8回中古文学会賞を受賞。

著書に『物語文学としての大鏡』（新典社）など。

上野 正史

2004年、成蹊大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学。現在、駿台甲府高等学校国語科教諭。

院政期以降の和歌、歌論に関心を持ち、『和歌文学大辞典』（古典ライブラリー）「やさし」の項目等を担当。

「体感して古典に〈参加〉する講読授業の試み」『日本語学』（2017年1月）等、

古典によるアクティヴ・ラーニングの方法論についても発言。

鈴木 亮

1979年、東京足立区生まれ。東京都立上野高等学校、成蹊大学文学部日本文学科卒業。

2007年、成蹊大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。

中澤伸弘先生、揖斐高先生に師事し、国学・近世和歌文学を研究。

現在、東京都立第三商業高等学校教諭。

築瀬一雄編『短冊井上文雄歌集』続編の刊行を計画中。

編著書に『中村秋香『秋香集長歌』翻刻と解題』（2012年、武蔵野書院）など。

ご挨拶

成蹊大学大学院の日本文学専攻では、毎年夏に研究集会を開催しております。本年度は現役大学院生のほか、大学や高校で教鞭をとる修了生の諸君にも久しぶりに母校で研究発表をしていただくこととしました。そして、「文学部スペシャル・レクチャーズ」の一環として、揖斐高名誉教授の講演も開催致します。

修了生の発表は修了生の皆さんの懇親の宴から、揖斐先生の講演は日本学士院会員選出を機に、始動した企画です。いろいろなきっかけで知を楽しむ場がさらに広がりゆくことを願い、一般のご来聴もお待ちしております。

成蹊大学大学院文学研究科日本文学専攻

【お問い合わせ先】成蹊大学文学部共同研究室

☎ : 0422-37-3640 E-mail : kyodoken@fh.seikei.ac.jp